

「学ぶ」ということ

校長 中川豊巳

先日、ある人の話から、忘れかけていたことを思い出しました。

その人の話は、アメリカに来てから友人になったあるエチオピア人との会話です。日本人の彼女は、現在アメリカで英語を学んでいます。そんな彼女が、そこで友人となったエチオピア人とテストのことについて話をしたそうです。

「テストってイヤですよ。テストなんてなければいいのに。」

と彼女はエチオピア人の友人に言いました。するとその友人から、

「えっ？じゃあ、どうして勉強しているのですか？私はテストが好きですよ。だって、自分が何がわかっていないかが確かめられるじゃないですか。わかっていないところがわかれば、またそこを勉強することができ、知識が深まっていくでしょ！？」

と返ってきたそうです。彼女は自分が学べる環境にありながら、自ら勉強することを回避したいと思っていることを恥ずかしく思ったそうです。

日本におけるテストのイメージは、入学試験で合否を決めるためであったり、テストの結果が悪いと両親に小言を言われたり、どうしても辛いイメージがあるのでしょうか。そういえば、私自身が中学生の頃は、テストの結果が上位50位まで名前が廊下にはり出されたり、テストの結果順に教室の座席を決められたりしたこともありました。その頃は、自分がわかっていないところを知ることができるありがたいものがテストなのだとは思えず、テストは成績を決めるためのものかと思っていました。そのためか、私もテストや勉強が嫌いな人間の一人だったように思います。



本来、「学ぶ」ということは、自分のためにするものです。

人は生まれながらにして知識欲をもち、知る喜びやわかる喜びを感じることで、本来は幸せな気持ちになれるもの。そしてさらに、人は夢や目標をもち、その達成のために多くのことを学び、結果として達成感や成就感が感じられるもの。その経験により、自信をもって人生を歩んでいけるものだと思います。テストというものは、その過程において、自分が身につけていることと身につけていないことをきちんと整理するためには欠かせないものです。その意味では、前述のエチオピア人のテストに対する感じ方は、純粹で健康的で、本来の学びの形と言えると思います。

日本人の多くは、テストの背景にある嫌な経験からテストを嫌い、それ以前に、学ぶという行為そのものに対しても逃避してしまっている傾向はないでしょうか。話をしてくれた彼女によれば、エチオピア人の友人は、学ぶことができる今の境遇を、心から喜び楽しんでいると感じたそうです。学ぶことができるだけでも本来は幸せなことですが、私たちはいつの間にかそれを忘れてしまっているような気がします。せっかく学ぶチャンスを与えてもらっているのならば、その境遇に感謝し、努力を怠ってはいけないと思います。



先日、中高部では期末テストが行われました。素晴らしい努力をしていることに脱帽させられる人もいましたが、プリントを少しだけでも見ておけば、もう少し違う結果になったであろうと思われる人もいました。ボストン日本語学校に通っている子どもたちは、現地校の課題だけでも忙しいことと思います。しかし、せっかく日本語学校で学ぶ機会を得ているのならば、日本語での勉強は難しいと憂いているのではなく、将来への可能性を広げてくれる今の境遇に感謝し、学べることを喜びにかえてほしいと思います。



学んだことをきちんと振り返って整理しましょう。テストがあったら問題をきちんと見直し、わからないことを一つずつ身につける作業も必要です。それを怠ると、それ以上学び続けることが苦痛になってしまうかもしれませんね。学びは積み重ねですから、わからないことを放置したままでは新しいことは入ってきません。また、保護者の皆様がテスト結果に対して、必要以上に過敏になり過ぎるのはよくないと思います。まったく気にしなさ過ぎるのもいけません。先週、前期の通知票「あゆみ」が配付されました。身につけていることを親子で喜び、次にチャレンジしていく課題が確認できるようにテストや通知票を振り返っていただけると幸いです。そして、学ぶことができることに改めて感謝し、喜びが感じられるようになることで、本来の「学び」を思い出していただけることを願っています。

